

「スットゴレ精神で」

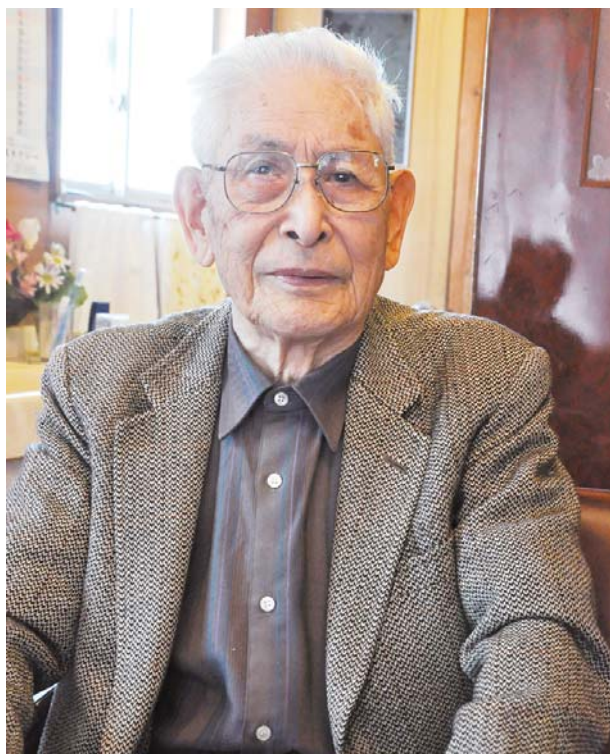
大島高校野球部の選抜高校野球大会出場をOBの中で誰よりも喜んでるのが藤山萬太さん(81)―奄美市名瀬―だろう。「ミスター安陵」と呼ばれ、卒業生だけでなく、多くの住民に慕われている。先日は病み上がりの体を押して母校を訪問し、激励した。藤山さんは「選手たちは奄美のスットゴレ精神を發揮して甲子園で大暴れしてほしい」と願っている。

ミスター安陵・藤山さん

藤山さんは大島高校第2回卒。奄美群島の日本復帰前の1951年に卒業し、琉球大学、大阪学芸大学(現在の大阪教育大学)を経て63年、理科教諭として母校に赴任し15年間、勤務した。その後、同校の教頭、校長を歴任した。同窓会(安陵会)の会長の後、現在は顧問を務めている。誰よりも大島高校を知っている人だ。

藤山さんが母校の甲子園出場を知ったのは入院先の病院だった。1月24日午後、出場決定の知らせが入ると、卒業生の職員が知らせてきた。屋村優一郎校長、渡邊恵尋監督が病室に報告に来てくれた。「甲子園に出られないな」といつも思っていた。こういう場面に出会うことができたと幸せと、素晴らしい後輩たちに誇りを感じる。

選拔出場の後輩にエール



「甲子園で大暴れしてほしい」と願う藤山さん＝奄美市名瀬

と話す。2月に退院すると、早速、母校を訪ねた。教諭時代の64、65年、軟式野球部が国体の県予選で優勝。65年には南九州大会で優勝した。「生徒たちは力がある。「甲子園を目指してほしい」と考えたが、経費もかかる。学校側もなかなか踏み切れなかった」と当時を振り返る。

72年夏、野球部員の提案で硬式がスタート。73年夏、初めて夏の全国高校野球大会の鹿児島県予選に出場した。定期船が出発すると、藤山さんは自前の遊漁船で見送った。「旗を持って定期船の周囲をぐるぐると船を走らせた。何度も何度でも」。野球部はベスト16に進出した。

その後、野球部は確実に力を付けた。昨年は春と秋の九州大会県予選で連続ベスト4。文武両道の校風、ボランティア活動なども評価されて「21世紀枠」で甲子園の切符を手にした。

藤山さんは願う。「勝ち負けは関係ない。選手たちは球場で大暴れしてほしい。スタンドの人たちはグラウンドの選手に届くよう、あらん限りの力を出して応援しよう」。後輩たちはきっと応えてくれるはずだ。

後輩たちの快挙について